

井本敦子 論文内容の要旨

主 論 文

Health-related quality of life in parous women with pelvic organ prolapse and/or urinary incontinence in Bangladesh

バングラデシュにおける骨盤臓器脱と尿失禁を有する
出産経験者の健康関連 QOL

井本敦子、Malabika Sarker、Rahima Akter、松山章子、本田純久

International Urogynecology Journal • in press

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻
(主任指導教員：本田純久教授)

緒 言

骨盤臓器脱 (pelvic organ prolapse: POP) および尿失禁 (urinary incontinence: UI) は、出産経験者によくみられる健康問題の一つである。POP は骨盤底の緩みにより、膀胱や子宮などの骨盤内臓器が下垂・脱出する状態をいい、陰部の膨隆感や違和感などを生じる。また、UI は尿が不随意的に漏れることをいう。POP および UI は重複して発症することも珍しくない。これらは日常における様々な活動に影響を及ぼし、健康関連 Quality of Life (QOL) を損なうと考えられている。

バングラデシュにおける妊産婦死亡は、最近の 20 年間で大いに減少した。一方、生命への危機はないものの、女性の QOL に大きく影響を及ぼす妊娠出産に関連した健康問題については、十分に認識されていない。そこで本研究では、バングラデシュにおいて POP、UI、およびその両方 (POP-UI) を有する出産経験者を対象に、健康関連 QOL を評価し、対象者の属性、疾病の種類および疾病の特性と健康関連 QOL との関連を検討した。

対象と方法

バングラデシュ都市部郊外にて、出産経験者を対象に質問票を用いたインタビュー調査を行った。POP 患者は、調査地にある NGO 診療所において、2015 年 10 月から 2016 年 4 月の期間に診断された人とし、このうち、UI を有する人を POP-UI 患者とした。UI 有症者については、2015 年 8 月から 2016 年 2 月の期間に同 NGO スタッフが住民に対して行った聞き取り調査において UI を認めた人とした。調査項目は、基本属性、出産回数、有症期間、併存疾患の有無、健康関連 QOL とした。UI 有症者には、UI の量と頻度、種類 (腹圧性、切迫性、混合性、その他) を尋ね、失禁量と頻度より重症度 (軽症～最重症) を評価した。また、診療記録より骨盤内臓器の下垂度を示す POP ステージ (1 - 4) の診断結果を収集した。QOL の評価には、包括的健康関連

QOL 尺度である The 12-item Short Form Health Survey (SF-12)を用い、身体的、精神的健康度の要約得点を算出した。

解析には、疾病別 3 群間の特性比較のために、クラスカル・ウォリス検定あるいはカイ二乗検定を用いた。また、SF-12 得点と、各項目および疾病 3 群間との関連については、マン・ホイットニーの U 検定あるいはクラスカル・ウォリス検定を用いた。さらに SF-12 得点を従属変数とする重回帰分析を行った。

結 果

POP 患者 107 人、POP-UI 患者 124 人、UI 有症者 126 人の計 357 人の出産経験者を解析対象とした。全対象者の平均年齢は 46.5 (標準偏差 12.3) 歳、小学校未卒業者が 76.5%、既婚者が 73.0%、未就業者が 80.7%であり、有症期間の平均は 7.4 年であった。疾病別の SF-12 による身体的、精神的健康度の中央値はそれぞれ、POP 患者では 29.1 と 35.7、POP-UI 患者では 28.0 と 35.1、UI 有症者では 33.9 と 42.0 であった。

QOL との関連については、年齢、学歴、婚姻状況、経済状況、出産回数、有症期間、併存疾患が統計的に有意に関連した ($p<0.05$)。疾病の種類では、UI 有症者は、POP および POP-UI 患者よりも身体的、精神的健康度が有意に高かった ($p<0.001$)。また、UI が重症の人は精神的健康度が低く ($p=0.044$)、混合性 UI を有する人は単独症状(腹圧性や切迫性のみ)の人よりも、身体的、精神的健康度が有意に低かった ($p<0.05$)。一方、POP ステージによる健康度の違いに有意な差はみられなかった。重回帰分析の結果、身体的健康度においては年齢が 46 歳以上 ($p=0.011$)、精神的健康度においては小学校未卒業 ($p=0.046$) であることが、健康度の低下と有意に関連した。疾病の種類では、POP-UI 患者は UI 有症者より身体的、精神的健康度が低く ($p<0.001$)、また POP 患者より身体的健康度が低かった ($p=0.006$)。

考 察

高所得国における先行研究の結果と比較し、本研究の POP、UI、およびその両方を有する出産経験者の健康関連 QOL は低く、特に POP-UI 患者において QOL の低下が認められた。また、QOL 低下の関連要因として、加齢、低教育歴、UI 重症度、混合性 UI を有することが示された。これらの疾病を有する女性は、QOL が阻害されていても受診しない場合が多いため、女性が産前産後健診等のサービス利用時に医療従事者から積極的に受診への働きかけを行う必要がある。さらに、POP と UI の重複は女性の QOL に対する負荷を増大させている可能性があるため、どちらか一方の疾病を有している女性には他方の疾病についても評価し、効果的な治療を行うことが QOL の改善につながると考える。